

平成 30 年度事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

社会福祉法人 こぼと会

理念の変更

昨年の法人の動きとして特筆すべき内容は、標題の理念の変更作業である。前年度の法人研修において、全職員参加のもと理念変更の意味を説明し、現行の理念についての意見徴収作業を行った。そのグループワークを通して検出された課題に対し、一年間の時間をかけて見直しの作業を進めたのである。

メンバーは副主任以上の役職者で構成し、理念の構造的な内容の構築を試みた。自分自身が保護者などに説明するときにも感じていたことであるが、子ども、保護者、職員それぞれの理念のベースはまったくといって同じであることに気付き、その説明をする資料としての理念が大変あいまいであることに違和感を覚えたことが事の発端であった。その構造的な流れをすべてに生かすため、まずは、それぞれの理解の流れを分析し、共通の枠組みが当てはまるのか？という点を検討してから作業を始めていった。

16名ほどの職員での話し合いを深めていくことにより、より年令による内容の違いが見えることが多くなり、理念のうちの責任の部分は共通に、行動指針については保育と学童部門に分かれて行うことにした。

こうして整理をしながら進めていくことで、参加者の理念に対する共通理解がとて高まっていった。一つ一つ、自分たちの言葉に出来るよう時間をかけて話し合いきったことにより出来た理解の深まりであった。ここまで、時間をかけなければならない部分はやはりあるのだと、実感すると同時に、最後まで言葉を紡ぎだす作業を厭わないで行ってくれた参加職員全員に感謝の思いをこの場でも伝えたい。

最終的にこの理念は、今年2月の法人研修で日の目を見る形となった。発表者は各部門がチームを作って発表する形をとった。それぞれのチームで発表形式を確認しながらプレゼン資料として作り上げることが出来たことも賞賛に値する。実際に出来た内容はとても素晴らしく、法人研修終了後の法人職員たちからも、「とてもわかりやすかった。」等の評価を得たことから積み重ねの大切さと、共通理解の大切さを身をもって体験することとなった。

令和の時代の幕開けと共に、理念を新たに掲げられたことは、法人の体制作りにとって大いに活況を及ぼす出来事のさきがけとなった。今後は、この理念を柱に、モチベーションの高い職場作りが達成できるよう、今回のメンバーを中心に協力体制を気づいてまい進して行きたい。一人ひとりの職員、子ども、保護者が輝けるよう…。

平成 30 年度事業報告書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

社会福祉法人 こぼと会

あおぞら保育園

(ロ)延長保育契約数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1時間	40	40	38	38	40	38	37	40	40	40	40	41	472
2時間	12	12	14	14	12	14	14	13	14	13	13	13	158
	52	52	52	52	52	52	51	53	54	53	53	54	630

(ハ)しょうがい児数及び名簿

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3歳女児	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3歳男児	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3歳男児	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4歳男児	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
5歳女児	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

(二)一時保育

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
半日	63	71	90	67	76	56	45	52	33	39	46	64	702
一日	161	82	102	183	185	145	197	176	212	162	182	231	2018
	224	153	192	250	261	201	242	228	245	201	228	295	2720

定期利用

定期 3	6	7	8	11	10	10	9	11	10	12	12	12	118
定期 4	3	2	2	1	1	2	3	4	4	3	2	2	29
定期 5	1	2	3	3	4	5	6	5	3	4	3	4	43

(ホ)保健管理

4月 ギョウチュウ検査

6月 歯科検診

二期 視力検査

毎月 健康診断(園医 江崎宗憲医師)

毎月 身体測定

毎月 布団乾燥

乳児保育

「環境評価スケールの導入」をテーマに保育の深まりを目指した 1 年であった。子どもへの援助に対する科学的な視点から、具体的な目標を取り入れたことで、明確な援助方策を職員共通のものとして実践することができた。子どもの育つ過程を早い段階から行動として見つめられるようになったことで、保育の連続性を意識した保育内容が一段と深めることができた 1 年であった。保護者にもその説明ができ、課題を抽出する作業を伝達することでお互いの意図の共有化を進めるきっかけとなった。ただし、理解度についてはまだ、職員間の差があることが改めて浮き彫りにもなった。来年度にしっかりとつなげていきたい。

幼児保育

乳児同様、『環境評価スケールの導入』をテーマに科学的な視点を取り入れた保育を実践。幼児組という枠を新たに設け、その枠の中で 3 年齢を意識した、就学に向けた「チーム保育」を職員が主体的に運営することでより子どもの行動に寄り添った保育実践を一年かけて築きあげていった。

それと平行して、多摩市の事業として、ソーシャルスキルトレーニングという年長向けの事業の 3 年目。子どもだけではなく、その情報を保護者と相互交換できる体制を作り上げ、子どもの行動を客観的に見つめるシステム作りを構築した。それを元に就学に向けた取り組みを行ったことで、保育園、保護者双方向の意思疎通が図られ、子どもの行動の変化が一段と目覚ましい結果をもたらした。共通ルールを作ることで、子どもが安心して行動を起こせるようになり、子ども同士のコミュニケーションの熟達も進むことになった。

これら二つの事業が重なり、うまくリンクしたことで、特に年長児の活動にダイナミックな人間関係を反映する出来事が増えたと同時に、確たる自信を持って小学校へと進むことができた。

地域向け事業

① 一時保育

今年度も、年間延べ人数が 4000 人近く、利用率の高い一年であった。子どもの人数に関係なく、職員の動きを整理することで安定した運営を行うことができていた。初めての子どもがひっきりなしに来る中、職員を中心に高い連携を元に力を合わせ

た一年であった。

研修・講習

多摩市保育協議会が設立され積極的な参加をしながら研修効果を高めるよう意図した。職場内でも、学童を含めた毎月の研修を行うことにより、0歳から9歳という発達の筋道を見据えた共通理解を結べる努力をした。

	研修名
職場研修	職場内研修 ・理事長研修毎月 ・コンサルリーダー研修（講師：深代氏）
	新人研修6回 グループワークセッション
講師派遣	無
職員派遣	東京都発達研修
	南多摩保健所研修
	東京都社会福祉協議会主催研修
	多摩市保育協議会研修 （主任保育士会、栄養士会、看護。保健師会、障害児会）
	保育士カウンセラー研修
	感覚統合学会研修
	間主観性研修

(ト)安全管理

毎月 避難訓練

(チ)保護者会

4月 9月 2月

(リ)一日体験入園

10月～2月 参加者

(ヌ)行事

4月	入園式、保護者会	11月	芋掘り	
5月	遠足(年長:近隣公園)	12月	クリスマスバイキング	
6月	交通公園見学		餅つき	
	保育参観開始(随時)	1月	新年子ども会	
	歯科検診	子ども会		
	お泊り会	2月	節分	
7月	プール開き		保護者会	
	七夕	ひな祭り		
	夕涼み会	お別れ遠足		
9月	防災引渡訓練	3月	卒園式	
	保護者会		進級	
10月	運動会			
	一日体験入園			
	遠足			
	ハロウィン			

毎月の行事

誕生会・アート指導・お茶の稽古・

(3)職員の待遇

(イ) 健康管理

- ・健康診断 (田村クリニック)
- ・検便 給食担当者、O才担任・・・毎月2回
全職員 検便・・・4月、10月

(ロ) 労務管理

- ・社会保険に加入
- ・退職金(福祉医療機構・東京都社会福祉協議会に加入)

(ハ) 待遇

- ・就業規則により処遇

(ニ) 福利厚生

- 職員検診、細菌検査など
- 歓迎会、送迎会等の食費補助等

(ホ) 職員の動き

- ・採用 本園 本園・・・萱場千知、小島慶太郎(4月)
分園 飯田望(5月)、千葉幸子(7月)
- ・退職 本園 高橋佑輔(3月)
分園 鎌溝ひとみ(3月)
- ・産休 本園 上川原香菜、岡本実梨
分園 四海真紀
- ・病休 仲山美子、宮下真咲

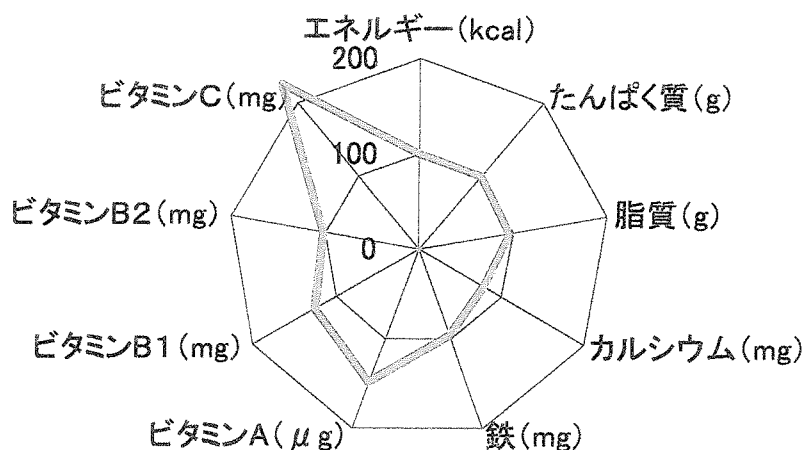
(ヘ) 固定資産購入

固定資産取得費					
5月24日	日よけメッシュシート	115,080			
9月14日	プール用ウッドデッキ	540,000			
12月20日	プロジェクター	113,400			
3月29日	空気清浄機器	1,728,000			
3月31日	調理機器	3,958,313			
3月31日	ゴミサー	1,680,480			
3月31日	絵画	250,000			
3月31日	プロジェクター	113,400			
3月31日	空調機器	4,503,600			
	小計	13,002,273		小計	0
	合計				13,002,273

栄養管理報告

3歳以上児	給与栄養 目標量	H30.4～H31.3平均 充足率(%)
エネルギー(kcal)	576	100
たんぱく質(g)	21.6	100
脂質(g)	17.9	96
カルシウム(mg)	261	78
鉄(mg)	2.5	96
ビタミンA(μ g)	202	148
ビタミンB ₁ (mg)	0.31	125
ビタミンB ₂ (mg)	0.36	102
ビタミンC(mg)	20	225

炭水化物エネルギー比(%)	55	58
脂肪エネルギー比(%)	30	26



給与栄養目標に対する充足率(%)

- ・カルシウムと脂質と鉄が不足したが、おおむねバランスよく摂取できた。おやつに牛乳をつけないときは、牛乳の代わりにチーズや煮干しを足し、昼食のフルーツをヨーグルトに変更してカルシウムを補うようにした。以前よりヨーグルトの日を増やした。
- ・クラスでは、子どもの食欲、体調により食べる量を大人が調整しているので、数字はあくまでも平均値である。
- ・野菜類を多く取り入れているため、ビタミン類が多くなっている。ビタミンCは過剰症もなく身体に滞在する時間が短いものなので十分に摂取できていることは子どもの為に大事なことから継続する。
- ・炭水化物エネルギー比、脂肪エネルギー比は、適正であり、三大栄養素(炭水化物・たんぱく質・脂質)のバランスはとれている。

給食活動

献立

一汁二菜の和食系の献立を中心にした。

主食は乳児は白米・幼児は7分つき米にしている。

副菜は和え物など野菜が多めだが、子ども達は良く食べており、毎日の残食量は今年度もかなり少なかった。子どもから「今日の給食おいしかったよ」といわれる事も多く励みになっている。

下膳時に、子ども達の食べ具合などをクラスから伝えてもらうようにしているので食べ易さなど改善され、残菜の少なさにつながっていると思う。

今年度も新しいメニューや季節の食材を意識して取り入れるなどを心がけた。

行事食・年長さんからのリクエストメニュー・レストラン給食は好評であった。

今年も給食職員による鮭の解体ショーを行う。年長さん向けの内容である。

解体後、鮭のちゃんちゃん焼きにして喫食する。

ライオンレストランは、子どもたちも大変喜んでくれた。

今年もライオンレストラン後に年長さんだけに噴水ポンチを披露した。喜んでくれたので来年度も継続する。今年度も引き続き、年長さんが毎月の誕生会メニューを順番で決めた。

今年から鶏肉の解体ショーを再開する。年長さん向きの内容である。

解体後、ローストチキンにして喫食する。年間行事に追加する。

張り切って話し合いながら、楽しいメニューができています。

献立表は毎月各家庭に配布している。アレルギー児にも個別対応したものを配布している。

献立にはないが、農園へ出かけたり、特別の散歩の時など、お菓子を用意した。

今年から入園式、卒園式等の祝いの日に、鯛の塩焼き(塩化粧)したものを給食のサンプルケース横に飾ることで祝いの気持ちを込めた。

保護者が雪化粧の鯛を持って子どもと写真を撮る姿が見られた。

調理

誕生会のケーキカットは、今年度も引き続き行い、1年に1回の自分の誕生月を子どもたちは楽しみにしてくれた。

乳児に必要なに応じて、離乳食を提供するなど個別対応した。下痢や口腔疾患なども個別に対応した。担任の判断によるが、朝食を摂ってこなかった子どもに牛乳やヨーグルト等の軽食を提供した。今年度も、国産で出来るだけ安心な食材を使うように心がけた。

時々、クラスの子どもが食べている様子を見つつ一緒に給食を食べ、楽しい食事の時間を共有した。

衛生

今年度も、ノロウイルス・O-157等、発生が通年化しているので、徹底した手洗い・健康管理はもちろん、衛生管理がきちんと行われるようにチェック表を活用した。

食育

前年度の評価・反省をふまえた年間食育計画をたて、それに沿って進めた。

夏には、プランターで自分たちが育てたものを収穫して食べることで、野菜を喜んで食べるようになった。(年長はトマト・茄子・おくら 年少・年中は胡瓜)

野菜の苦手だった子も食べられるようになったり、毎年の事ながら関わりを持つことの大切さを実感した。

市川農園さんで掘ってきた筍の皮むきをし、味わい、成長した竹で七夕・流しそうめんを楽しんだ。また、市川農園さんでは野菜の苗の植え付け・田植え・草取り・稲刈り・収穫を経験した。

自分たちで収穫した米でごはんを炊いた。

4歳児はグリンピース・そら豆の皮むき・野菜をちぎって食べたり絵に描いたり五感で感じる活動をした。少人数のグループで短時間に楽しくできた。

咀嚼が上手になるように、食べる煮干を用いて咀嚼の練習をした。

アレルギー

アレルギー児9名に、卵・牛乳・小麦・ごま・大豆のアレルギー食を提供した。お家の方からも、子どもが美味しいと言って喜んでいて励みになっている。また卒園児から感謝の手紙を給食室宛で頂き日々の取り組みの糧にしている。

会議

月1回給食会議を開き、献立の検討・食育の取り組み・クラスとの連絡等話し合うことで、クラスと給食室との連携をとっている。

0オクラスとは、月一回連絡会を持ち、子ども一人ひとりの離乳食の進め方について話し合っている。

防災対策

非常食は、子どもと職員の分を3日分用意している。

非常食に必要なもの、多めに買っておいたほうが良いもの等、器具や道具など揃えたり具体的にする。

考 察

《病欠状況》

今年度の病欠者数は 860 名で 3 年ぶりに 1000 名を下回った。

各年齢での年間病欠数の平均は 0 歳児 14.8 日、1 歳児 9.4 日、2 歳児 7.5 日、3 歳児 6.4 日、4 歳児 6 日、5 歳児 3.7 日と例年と大きな変化はなかったが 1 歳児クラスでは在園児の平均が 6.7 日に対して新入園児 13.8 日と 2 倍の差が出ている。このことを踏まえて新入園児説明会では病気時の対応として多摩市では病後児と病児保育があることを伝え、病児が安静に過ごせる場の紹介と保育園での感染拡大予防のお願いをした。

感染症ではインフルエンザの流行が大きく 5 年連続で年間延べ 100 名以上の病欠となっているが今年度は 200 名近くが欠席をした。1 月中旬から 2 月初旬にかけての 1 か月間程度、インフルエンザ A 型が流行し園児 48 名が発症した。0 歳と 1 歳児クラスは数名であったが 2 歳児以上ではクラスの半数程度が発症した。今年度の特徴としては職員の発症が多かった事で、合計 9 名の職員が感染した。11 月に補助職員も含めた全職員のインフルエンザ予防接種を行っているが手洗いやマスクの着用などの基本的な感染予防を徹底するとともに園児への感染拡大を予防するためにも早めの休養と受診を勧奨していく。

その他の感染症で大きな流行はなかったが 0 歳児クラスで感染性胃腸炎と R S ウィルスの感染拡大がみられた。胃腸炎に関しては 10 名中 9 名が診断され保護者への感染も多くきかれた。R S ウィルス感染症は 10 名中 8 名が診断され、その内 1 名は入院治療となった。今年度は 0 歳児クラスの月齢が例年よりも低く、免疫力や抵抗力が未熟であった事も要因として考えられるが、だからこそ特に乳児クラスの感染症予防対策は確実に行っていきたい。

その他、溶連菌感染症と中耳炎は夏季以外毎月のように病欠する園児がみられた。原則として保育園での投薬は遠慮していただいているが、溶連菌感染症と中耳炎に関しては長期間内服が必要なケースがあり内服薬を持参する園児もいるため投薬事故などおこさないように慎重に対応をしていく。

《事故報告》

今年度は昨年度よりも件数が増えて10件の事故報告があった。内訳はけが5件（歯2件、額1件、足1件、耳1件）と肘内障2件、蜂刺され1件、誤食1件、転落1件である。

けがに関しては大きなものはなく通常的环境中で本人が転倒した事故が多く受診回数も1～3回で終了している。

重大事故としては誤食と転落があった。誤食に関しては玩具を飲みこんでしまうという事故であったが小さな玩具を出す時の見守り方と職員間の連携について話し合い、クラスが落ち着かない時には小さな玩具は提供しないという事を確認した。

転落に関しては、0歳児クラスでオムツ台から落下するという3年前にも1度起きた事故が再度起きてしまった。オムツ交換などに関する育児マニュアルの読み合わせと確認を行ったが、まずは子どもの安全が第1であるという意識が大切である。何よりも子どもの安全を優先するという事を毎日確認するためにオムツ交換台近くに安全第1の掲示をして常に子どもの安全を念頭に置いて保育を行う。

また同じ事故を繰り返さないために、来年度より安全委員会を毎月行って提出された事故報告書やヒヤリハットをもとに事故予防について話し合いを行っていく。

《発達》

今年度の身長・体重発育の平均値や伸びは各年齢とも例年並みで大きな変化はなかった。

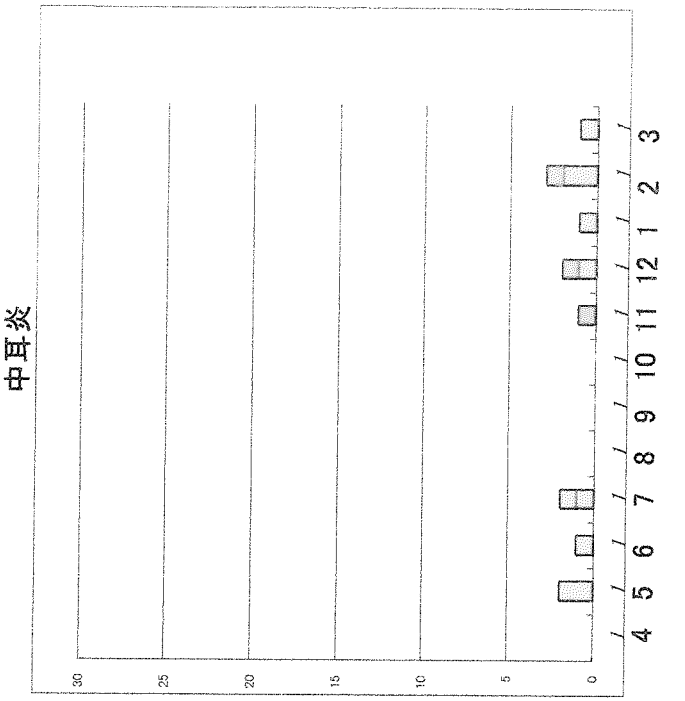
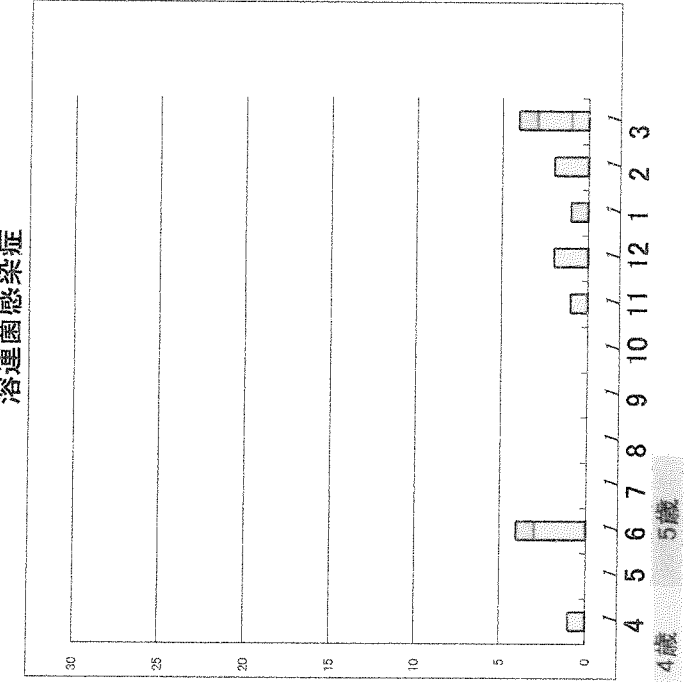
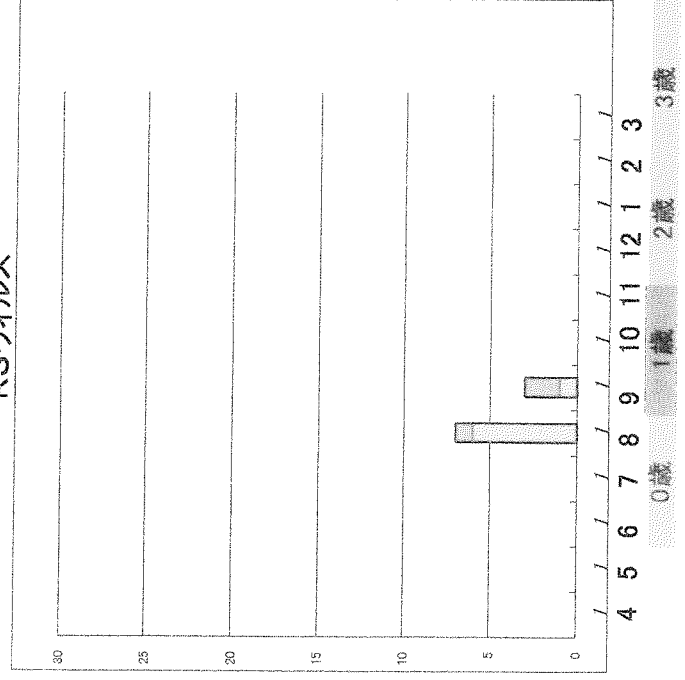
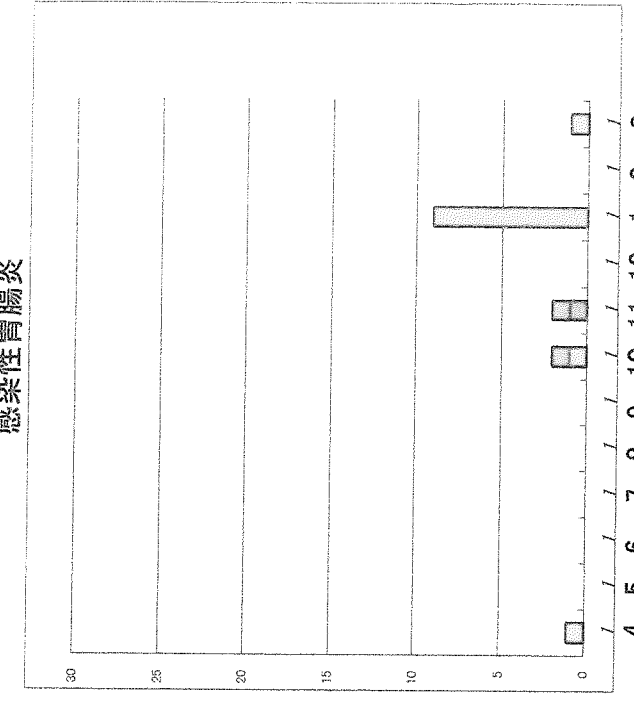
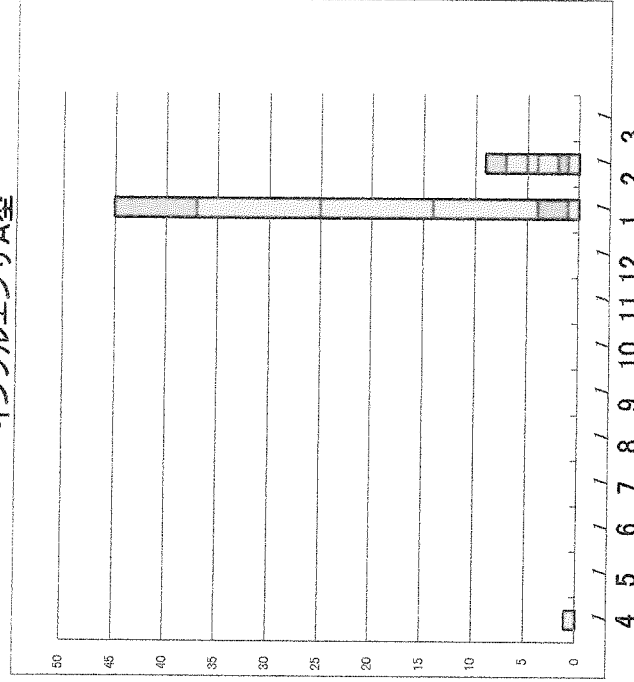
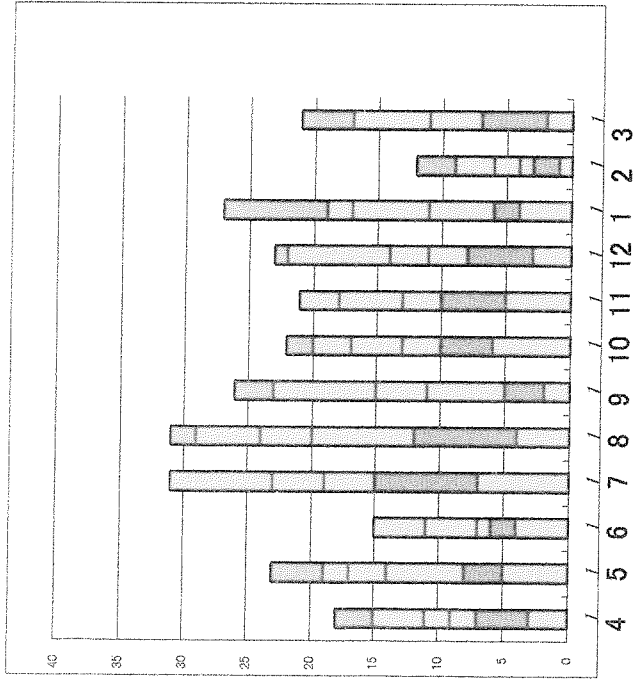
ただ、昨年度から増加してきている肥満度15%以上の園児割合が今年度も5月3%から11月5.4%と増え続けている。5%を超えるのは初めてであり、今後も経過をみていく必要がある。個別にみても体重が90パーセンタイル以上の園児は年間の体重成長も2kg以上と全員が平均を上回っている。現在は受診勧奨が必要な園児はいないが年間成長率だけでなく、生活習慣や食事状況にも注意して経過をみていくようにする。

その一方で、やせ気味や低身長などの成長障害が疑われる園児も数名いる。低出生体重児や多胎児などリスクのある園児もいるため毎月行っている身体栄養結果の評価を4月、8月、12月の年3回は行うようにする。

また低身長に関しては成長曲線も活用し、受診勧奨に役立てていく。

2019年5月20日

病名\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
風邪	6	5	4	1	9	7	5	8	5	10	3	11	74
鼻汁	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
咳	6	2	3	9	5	1	4	6	7	7	1	1	52
喘鳴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
邪ねつ	21	23	17	48	51	34	25	23	22	21	7	31	323
扁桃腺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
溶連菌感染症	1	0	5	0	0	0	0	1	2	0	2	5	16
気管支炎	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
喘息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中耳炎	0	1	0	2	0	0	0	1	2	0	0	2	8
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
結膜炎	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
伝染性紅斑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
ウイルス性胃腸炎	0	0	0	0	0	0	3	3	0	26	0	2	34
突発性発疹	0	8	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	11
プール熱	0	0	0	0	6	0	1	2	0	0	0	1	10
手足口病	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	4
ヘルパンギーナ	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水疱瘡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
とびひ	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
下痢	5	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	8
嘔吐	0	1	4	1	0	0	0	0	1	3	0	2	12
用心して休む	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
体調が悪い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
火傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯痛	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腹痛	0	4	0	2	0	1	1	0	0	0	0	1	9
通院	1	2	1	3	2	1	0	0	0	1	0	1	12
インフルエンザ	5	0	0	0	0	0	0	0	0	172	20	0	197
その他	6	2	0	1	24	23	5	6	0	1	1	2	71
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	54	51	34	73	101	73	44	50	41	242	34	63	860



0歳 1歳 2歳 3歳 4歳 5歳

H30年度事故記録

月 日	組・年齢	時間・場所	病名等	事故内容
5月2日 (水)	うさぎ 3才0ヶ月	10時10分 長久保公園	右手 第2指 蜂刺され	地面にいた蜂を捕まえようとして人差し指を刺される。皮膚科受診。消毒し、軟膏処方される。
5月25日 (金)	うさぎ 3才0ヶ月	16時40分 屋上園庭	歯外傷	他児に背後から抱き着こうとしてバランスを崩しぶつける。虫歯治療中の歯から前歯の治療部分がとれる。歯科受診し処置を受ける。
7月26日 (木)	りす 1才11ヶ月	9時40分 保育室	肘内障	サイズの小さなシャツを脱ぐ際に左手を握り介助した時に手首の痛みが出る。その後両手を使って過ごせていたため様子をみたが、午睡後に手を動かさなくなり整形外科受診。肘内障と診断され整復治療を受ける。
8月27日 (月)	りす 2才0ヶ月	8時40分 保育室	肘内障	肋木内をハイハイしていて右肘の痛みが出る。整形外科受診。肘内障と診断され整復治療を受ける。
10月25日 (木)	うさぎ 2才7ヶ月	9時00分 保育室	誤食	遊んでいたおはじきを1個飲み込んでしまう。むせるような様子はなくそのまま様子をみる。翌日夜の便からみつかった。
11月6日 (火)	ぞう 5才2ヶ月	9時15分 保育室	歯外傷	振り返った際に他児の額に口をぶつけてしまう。前歯にぐらつきあり歯科受診。固定処置を受ける。
11月22日 (木)	ひよこ 1才2ヶ月	16時30分 保育室	転落	オムツ交換後、おむつ台から落下。額に赤みと上唇から出血。意識状態などに異常なし。経過観察したがその後異変はなかった。
2月5日 (火)	うさぎ 2才10ヶ月	9時45分 長久保公園	額外傷	公園で転倒。額より出血。傷が深いため外科受診。消毒と皮膚接合テープの処置を受ける。
2月25日 (月)	ぞう 5才8ヶ月	10時10分 保育室	足外傷	倒れてきたイスが左足親指にあたり出血。外科受診し消毒と皮膚接合テープの処置を受ける。
3月1日 (金)	うさぎ 3才7ヶ月	16時30分 屋上園庭	耳外傷	滑って転倒し遊具の階段部分に右耳をぶつけて出血。外科受診し消毒と皮膚接合テープの処置を受ける。

平成30年度 発育表

平均値	身長			体重		
	4月	3月	その差	4月	3月	その差
0歳	63.73	75	11.27	6.74	9.81	3.07
1歳	80.29	88.22	7.93	10.77	12.64	1.87
2歳	88.94	96.43	7.49	13.11	14.64	1.53
3歳	96.3	102.12	5.82	14.57	16.27	1.7
4歳	103.79	109.77	5.98	16.57	18.51	1.94
5歳	110.54	116.15	5.61	18.99	20.96	1.97